

震災時の行動について

（生徒・家庭用）

東京成徳大学高等学校
（高等部）

地震が起きたとき、被害を最小限に抑えるためには一人ひとりが落ち着いて適切に行動することがとても重要です。そのためには日ごろから防災意識を高く持ち、いざというときにどう行動すれば良いのかを知っておくことが必要です。この冊子をよく読んで、正しい心構えを身につけてください。

目次

第1章	校舎の耐震性等について	
1.	校舎の耐震性	2
2.	震災に備えての備蓄品	2
第2章	大地震が起こったら	2
1.	校内での対応	3
2.	部活動中の対応	4
3.	登下校中の対応	5
4.	自宅での対応	5
第3章	自宅・保護者との連絡	5
第4章	帰宅、保護者による出迎え、宿泊	6

添付：「生徒下校カード（サンプル）」

第 1 章 校舎の耐震性等について

1. 校舎の耐震性

東京成徳大学高等学校（高等部）では、すべての建物について耐震診断を実施した上で、平成 23 年までに国の新耐震基準に基づいて耐震強化工事を完了しています。

新耐震基準では「おおよそ震度 6 強から震度 7 程度の地震に対しても致命的な損害を回避し人命を保護する」となっています。

従って震度 7 程度の地震が起きても建物の崩壊は防げると考えられますので、生徒の皆さんは落ち着いて行動してください。

なお、平成 23 年 3 月の東日本大震災のときは、首都圏では震度 5 強の地震が発生しました。

2. 震災に備えての備蓄品

（1）個人用の備蓄品

3 日分の食料・水・簡易ブランケットの非常用セット

（カリフォルニア州で発生した災害体験を基にアメリカで開発された
救援物資が届くまでの 3 日間を自力で生き抜くためのサバイバルキット）

（2）学校で備蓄しているもの

飲料水、食料、毛布、簡易トイレ、医薬品、防寒・保冷剤、ヘルメット、ラジオ、
懐中電灯、カセットコンロ、拡声器、簡易浄水器、ポリ容器、乾電池、軍手、担架ほか

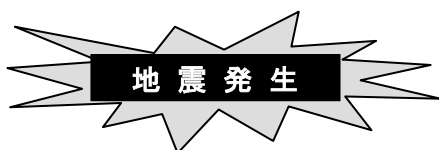
第 2 章 大地震が起こったら

どこにいても身の安全を図ってください。大揺れの中では思うように行動できません。

しかし、とっさに頭、首を両手や持ち物で保護して、少しでも安全な方へ移動してください。

- ・机の下に入る。避難口確保のため教室のドアを開ける。ガラス飛散に備えカーテンを閉める。
- ・廊下など「ガラスの多いところ」では教室に入る。（ガラス面から離れる）
- ・図書室、靴箱付近では、棚や靴箱からとっさに離れる。
- ・教師も生徒も「机の下！」「棚から離れて！」などと声を掛け合う。
- ・校庭では、校舎の壁際から離れ、校庭中央を目指す。

1. 校内での対応



地震発生から 30～40 秒

大揺れ 身の安全を図る

まず気持ちを落ち着け冷静に！

基本行動は「しゃがむ」「身にかくす」「頭を守る」

放送)ただいま地震が発生しました

校舎内にいる生徒は机の下に避難してください

グラウンドにいる生徒は中央に集まり人員を確認してください

地震発生から1～2分後

大揺れがおさまってくる

放送)地震はおさまりましたが

余震が起きる可能性が高いので

全員グラウンドに避難してください

地震発生から3～5分後以降

大揺れは既に去ったが、余震が考えられる

余震の揺れで、本震でゆるんだものや新たな崩壊、崩落、落下等が起こる可能性がある
指示にしたがい、危険箇所を避けて校庭に避難する

「押さない」「駆けない」「しゃべらない」「戻らない」……「おかしも」

先生の指示に従って、落ち着いて行動する

交通が混乱・遮断し帰宅困難な場合は、学校で待機、宿泊させます。

全員が3日間以上避難できる場所、及び食料・水などは充分確保されていますので
安心してください。

* 下記の各場所では、それぞれ取るべき行動が異なります。先生の指示に従って次のよう
行動してください。その後、必要があれば外への避難の指示が出ます。

場 所	生 徒 の 行 動
普 通 教 室	○机の下に入り、机の脚をつかむ。窓と反対側を向く。
理 科 室	○薬品棚等の倒壊などに備えて机の下に入り、しっかりしたもの（机の脚など）をつかむ。 ○火気使用中であれば、消火する。 ○有毒ガス発生の恐れがある場合は、窓を開けてハンカチを鼻や口にあてる。
調 理 室	○食器棚や冷蔵庫などの倒壊に備えて教室の中央に集まり身を低くする。 ○コンロ使用中であれば、消火する。 ○包丁などの器具は落下しないようにする。 ○ガスへの引火に注意する。
家 庭 科 室	○用具棚などの倒壊に備えて机の下に入りしっかりしたもの（机の脚など）をつかむ。 ○ミシンやハサミなどの器具が落下しないようにする。 ○アイロン使用中であれば、消す。
コンピュータ室	○コンピュータの落下に注意し、机の下に入りしっかりしたもの（机の脚など）をつかむ。
体 育 館	○天井や窓、壁からの落下物に注意しながら、身を低くする。
図 書 室	○書籍などの落下物に注意しながら、テーブルの下に入り脚をつかむ。
音 楽 室	○落下物に注意しながら、身を低くする。
廊 下	○ガラス面を避け、近くの教室の机の下に入り脚をつかむ。
プラネタリウム	○中央の機械から離れて身を低くする。
グ ラ ウ ンド	○壁や校舎等建造物から離れて中央部方向に避難し、体を低くする。
食 堂 生 徒 ホール	○熱い食べ物の落下などに注意し、テーブルの下に入り脚をつかむ。
プ ー ル	○落下物に注意しながら速やかにプールのふちに移動し、ふちをつかむ。 ○揺れがおさまったら、すばやくプールから出る。靴を履き、衣服やバスタオルで身を守る。

2. 部活動中の対応

- 1) 校内で部活動を行なっている場合は、基本的に活動している場所での先生の指示に従い避難してください。
- 2) 学校周辺のグラウンドなどで部活動を行なっている場合は、基本的に活動している場所に近い校舎の先生の指示に従い避難してください。

活動場所	指示を受ける校舎
東京成徳学園第2グラウンド	中高一貫部
鹿浜橋グラウンド	

左記の施設を利用する主な部活動は、テニス・弓道・サッカー・ソフトボールなどですが、時期や曜日などによっては利用しない場合もあります。よく確認してください。

3. 登下校中の対応

- 1) 登下校中の場合は、原則として帰宅してください。ただし、帰宅するよりも学校に向かうほうが安全な場合は、学校に向かってください。
- 2) 危険が伴い帰宅することも学校に来ることもできない場合は、徒歩・自転車通学の生徒は速やかに最寄りの避難所に避難してください。公共交通機関利用の生徒は車内放送などによる乗務員の指示に従って行動し、最寄りの避難所に避難してください。東京・神奈川の私立小学校・私立中学校・私立高校は「登下校時の緊急避難校ネットワーク」という取り組みをしていますので、避難すれば受け入れてもらえます。

4. 自宅での対応

- 1) 安全が確認されるまでは登校を見合せ、自宅で待機してください。公共交通機関や学校に危険がなく授業ができる状態の場合は、登校を促す緊急情報メールを配信します。

もしものときに備えて……

- ・災害時の家族の集合場所を決めておきましょう
- ・「災害用伝言ダイヤル」の活用
- ・「災害用伝言板サービス」の活用
- ・自宅と学校の徒歩での経路の確認
- ・その経路途上や、通常の通学経路にある、東京都内の私立中学・高校やコンビニエンスストアなどの災害時支援が受けられそうな場所の確認

第3章 自宅・保護者との連絡

1) 学校

●緊急情報メールの配信

- ① 「Hot Con Pass」システムの学校管理サイトにメッセージを入力する。
- ② 入力されたメッセージは HotConPass データセンターより、このシステムに登録してある保護者・家族のメールアドレスに一斉配信されます。

* メールが届いていない場合は、各携帯電話会社のサーバーに止まっている可能性が高いので、「新着メール」がないか照会をお願いします。

* アドレス変更をした場合は、コールセンター（0120-11-6634）に電話してください。

お願い：このシステムは、HotConPass データセンターが停電に陥った場合は作動しません。

また、学校が停電した場合、システムへの情報入力ができなくなる危険性があります。

次に記す家族間における非常時の連絡体制は、必ず決めておいてください。

●学校HPにも、状況及び連絡を掲載しますのでご覧下さい。

2) 生徒個人

生徒は、「携帯電話で保護者に連絡してよい」という許可が伝えられたら、自宅・保護者に「無事であるが帰宅することができない」ことを連絡してください。メールの方がつながりやすい場合もあります。その際、メッセージには、「現在、何時何分」であるかを必ず入力してください。

3) 保護者

① 生徒との直接連絡

安否の照会に対応できる電話回線は限られていますので、それぞれのご家庭で生徒と直接連絡を取り合える通信手段 ― 例えば、どの「災害用伝言板」を使うかなどを日頃より打ち合わせておいてください。また、保護者からも生徒の携帯電話に「無事」であることのメールまたは電話を入れてください。

② 自宅以外の避難場所

保護者も帰宅困難に陥る危険性があるので、自宅以外の避難場所をどこにするのかをあらかじめ話し合っておいてください。

第4章 帰宅、保護者による出迎え、宿泊

1) 徒歩、自転車、公共交通機関で帰宅することができる場合は、安全を確認後、帰宅の許可を出します。帰宅する生徒は、「生徒下校カード」に必要事項を記入し、担任を通して本部に提出してください。帰宅したら必ず学校に連絡をしてください。

2) 徒歩、自転車、公共交通機関で帰宅することはできないが、保護者が迎えに来ることはできる場合は、学校で待機させ、保護者が迎えに来たら、「生徒下校カード」に、必要事項を記入後、生徒を引き渡します。

3) 徒歩、自転車、公共交通機関で帰宅することができず、保護者が迎えに来ることもできない場合は、学校に宿泊させます。

生徒下校カード

下校日時	年 月 日 午前／午後 時 分
------	-----------------

どちらかの ☐ を 必ずチェックする	☐ 本人のみによる下校
	☐ 引受人と共に下校（出迎えによる）

※ 必ず記入【 生徒本人が記入 】

フリガナ 生徒氏名			
学年・組・出席番号 学級担任	年 組 番	（学級担任 先生）	
生徒携帯電話番号	—	—	

【 引受人と共に下校の場合記入（引受人本人が記入すること）】

フリガナ 引受人氏名			
生徒との関係	保護者： 父 ・ 母 ・ その他（ ） 保護者以外：		
保護者以外の場合 住所			
保護者以外の場合 電話番号	—	—	

※ 必ず記入【 立会い教職員 】

教職員氏名	
-------	--